



『人権フォーラム2025 いのち輝くまち加古川』

第1部 表彰式 人権ポスター、人権マーク、人権標語・キャッチコピー

第2部 講演

「人生100年時代をどう生きるか～失敗しても諦めない人生の歩き方～」

講師 木山 裕策（きやま ゆうさく）さん

「人権フォーラム2025」に参加して

野口南小学校区 土屋 数馬

本年多くの市民の参加を得て、「人権フォーラム2025」を8月17日（日）、SHOWAグループ市民会館で開催しました。

昨年に続き加古川西高等学校放送部4名で司会進行、プレゼンターを務めていただきました。

第1部の表彰式では、市内児童・生徒より応募された人権ポスター（932作品）、人権マーク（6,193作品）、人権標語・キャッチコピー（15,499作品）から選ばれた優秀作品の表彰でした。多くの児童・生徒が人権について考える機会を得た事は非常に良かったと思います。

第2部については、歌手の木山裕策さんの講演及びミニコンサートでした。木山さんは、大阪府出身の1968年生まれ。奥様と4人のお子様（全員男子）がいらっしゃいます。ところが、2004年左側の甲状腺に悪性腫瘍が見つかり、主治医より手術の際に声帯と繋がる神経を傷つけてしまう可能性があり、「声が出なくなるかもしれません」と告げられます。この時が人生で一番落ち込んだ瞬間だったと言わされました。

しかし、木山さんは、もし無事に手術が終わり、声が出るように回復すれば歌手という最後の夢へ挑戦することを決意されます。

その後、手術は無事成功し、声は残りました。手術後、リハビリによって歌を歌えるまで回復し、自分の声を子供達に聞かせたいと思うようになります。歌手になるために、2007年にオーデション番組に出場されました。結果は残念ながら不合格でした。この時、大切な子供達を悲しませた、傷つけてしまったと思われた木山さんでしたが、子供達からは「心をこめて歌ってくれてありがとう」と褒められて嬉しかったと語られました。作曲家の多胡邦夫さんにも認められ「子供達に最後まで諦めない姿を見せたい」と異例の再挑戦をしますが、メジャーデビューは簡単なことではありませんでした。

そして色々な要素が奇跡的に重なった結果、2008年NHK紅白歌合戦に初出場を果たされました。

講演会最後のミニコンサートでは「home」、「愛は勝つ」等の曲とともに会場の皆さんとの手拍子で一体となり、非常に楽しい時間を過ごしました。



【講演をする木山 裕策さん】

人権フォーラム2025 参加者の感想（アンケートより抜粋）

○大変満足できました。“失敗したら恥ずかしい”そんなふうに私自身考えており、恐れて逃げていた経験があります。木山さん自身の経験談を通して挑戦していくうえでの過程でネガティブと思いがちな失敗を引きずるのではなく思いを強く持ち続け、人生楽しむことが大切だと学びました。参加者の年齢層が自分より高い印象。若者にも参加を促すべきと思いました。（20代）

○木山さんの「失敗してもいい」というメッセージが彼の半生の話のうえで語られた言葉として説得力をもって受け取ることができた。また歌の力というのは人の心に強く訴えかける強いメッセージ性があるのも感じた。歌にも手話が付いており図らずも芸術性が高く映り感動した。（30代）

○人一人の人生を初めてしっかりと聞きました。私も失敗するのが嫌で負けず嫌いです。失敗を恐れずに、いろんな事に挑戦する姿を私も子どもに伝えていきたいと思いました。シングルなので仕事も毎日の生活も大変だけど、私も好きなこと、やりたかった事、自分の人生についてもしっかりと見てみたいと思います。甲状腺の摘出手術をしたとはおもえない声量と素敵な歌声でした。選曲が高校受験に悩んでいる15才の娘へジャストでした。
2人でカラオケ行って夢を語ってきます！
(30代)

○大人になり人権を考える機会はなくなっていたけど、たまたまこの話を聞くことになりました。同じような経験をしており、だからなのか、木山さんの話す声にも心が穏やかになり、いろいろ考えていた不安事もスッと

なくなっていく感じでした。これも何かの縁ですかね。いい時間を過ごせました。ありがとうございました。（40代）

○感動的な講演とコンサートでした。「明日からがんばろう！」生きる希望、力が湧いてくるそんな時間が過ごせました。心からありがとうございました。（50代）

○失敗しても諦めないで人生を生きることが大切というメッセージ日々夢を追い、それを見直しながら、また夢を追うという生き方を自分はしてきていないことを指摘された気がする。でも、そこまで追い求めるべき夢とは何なんだろう。自分にしかできないことでもない。結局、自分で納得できる生き方ということか。ぐるぐる自分の考えが巡る講演であった。「いかにも人権」ではない、生き方を問うような講演会も大切だと感じた。
(60代)

○これまでの人生で、人の権利、差別について人並みに思っていた事が、今は真剣に考えるようになり、人への思いやり、手助け、助言を心掛けるようになりました。残りの人生、自分の命を大切に他人の命への思いやりを考えて生きて行きます。今日は有り難うございました。（70代）



【歌われる木山裕策さん】

市推協 町懇研修会

野口北小学校区 松盛 美早子

6月26日(木)19:00～人権文化センターにおいて「町懇研修会」を開催しました。

まず、事務局の先生から町内懇談会(町懇)の事前準備について、町懇当日について、町懇終了後についてなどの大まかな説明がありました。また、人権を考えるきっかけとして六曜

(先勝、友引、先負、仏滅、大安、赤口)は合理性はないが、昔からあるのでという理由で信じられている、というお話を簡単にいただき興味深かったです。

次に、ある町内会の方から去年実際に行かれた町懇について具体的なお話をありました。町懇の様子の写真を見せていただいたので、準備や役割分担など流れが分かりやすく参考になりました。

最後に5、6人のグループに分かれてミーティングをしました。まず順番に自己紹介したところ、初めて市推になった方がほとんどだと分かりました。悩みや疑問点を共有して意見を出し合い、分からぬところは三役の方にサポートしてもらい有意義な話し合いが出来ました。

他の地区の方々と初めて話して印象に残ったことの一つは、各町内会によって自治会班長もしくは隣保長の構成が男性ばかりの地区、女性が多い地区など違うことです。自分の地区は女性がほとんどなので新しい発見でした。

今日の研修会で町懇について学べたこと、またいろいろな地区の方々と交流出来たことが良かったです。



【町懇研修会の様子】

わがまち 町内懇談会

別府小学校区 大前 誠良

私の町内会(北別府町内会)は、10月4日(土)19時より、北別府公民館において、人権学習会(町懇)を開催しました。

内容は、人権啓発DVD「あなたのいる庭」を視聴後、人権アドバイザー(佐々木秀雄さん)から、「社会的養護・子どもの権利とは何か」「児童養護施設の現状と地域住民の理解・支援など」について、話していただきました。

学習会を終えて

私は、施設や社会的養護について、ほとんど知りませんでした。今回、児童養護施設に「民間住宅を活用した家庭的な施設(地域小規模型)」がある事、「ケアリーバー」という言葉や現状についても、初めて知りました。

私たちは、施設への偏見や思い込みを無くし、少しでも寄り添える感性を持ちたいものです。

一方で、児童養護施設やそこで暮らす子どもに接する機会が希(まれ)なことも事実です。まずは、町内の子ども達への見守りが大切だと感じました。



【町内懇談会の様子】

第3回 全体研修会

平岡北小学校区 神山 典賢

10月7日（火）昼と9日（木）夜の2回に分けて、人権文化センターで市推協第3回全体研修会を開催しました。昼・夜開催としたことで多くの市推が参加され、大ホールは満員となりました。

講師は人権アドバイザーの稻岡昇太さんで、演題は「人権感覚を磨く～まずは自分が変わることから始めよう～」。冒頭では絵や図形を用い、固定観念が差別につながることを解説。続いて、同和問題をはじめ、人権擁護に関する世論調査、部落差別の起源、人権の歴史について、資料を使って分かりやすく説明されました。

特に印象的だったのは、1280年前後（鎌倉時代）の文書「塵袋」に見られる差別用語の話や、大正11年に出された「水平社宣言」に「人間」という言葉が10回使われ、「差別」という言葉が一切出てこないというエピソードでした。

最後に、同和問題に対して「知る・理解する・行動する・定着させる・伝える」ことの大切さが語られ、「寝た子を起こすな」では差別はなくならないという強いメッセージが印象に残りました。



【全体研修会の様子】

新着 DVD & 書籍の紹介

人権教育・啓発活動に活用していただくために、本年度、新たに購入したDVDと書籍の一部を紹介します。人権文化センターにて貸し出しを行っていますので、ご活用ください。

【DVD】

- ◇シリーズ・人権を考える
「反対する理由～結婚差別を乗り越えて～」
21分 同和問題 2024年制作
- ◇シリーズ・人権を考える
「いつの間にか拡散～ネットに潜む部落差別～」
21分 同和問題 2024年制作
- ◇「聴く力～相手を想う
傾聴コミュニケーション～」
23分 職場の人権 2024年制作
- ◇「話す力～ハラスメントを防ぐ！
対話のアップデート～」
23分 職場の人権 2024年制作

【書籍】

- 「親が知らない学校歴史教科書の穴」
松木 國俊 他
2025年発行（ハート出版）
- 「介護と相続、これでもめる！」姉小路 祐
2025年発行（光文社）
- 「部落フェミニズム」熊本 理抄 他
2025年発行（エトセトラブックス）
- 「まさか私がクビですか？」
日本経済新聞「揺れた天秤」取材班
2025年発行（日経BP）
- 「富士山大噴火と阿蘇山大爆発」翼 好幸
2016年発行（幻冬舎）
- 「かってもまけてもいいんだよ」
オーレリー・シアン・ショウ・シーヌ
2022年発行（主婦の友社）